資料１

印西市の認知症施策および令和5年度事業について

【基本的な考え方】

令和5年6月に認知症基本法が公布され、当事者の意思の尊重、認知症に対する理解の促進、あらゆる分野で参画する機会の確保等が基本理念として示された。印西市においても、これらの理念が実現されることを目的として各事業に取り組んでいく。特に、認知症についての正しい理解の周知を推進し、認知症が身近なことであり「ともに生きる」ことを目指していくことについての理解を求める事業を強化する。

【印西市の認知症に対する事業】

①認知症ケアパスの作成

認知症の状態に応じたサービス利用の流れを示したケアパスを作成する。

令和4年度1200部作成。相談時に市民へお渡しするほか、イベント会場への設置、医療機関、居宅介護支援事業所、コミュニティーセンター等への配布を行った。

＜令和5年度＞

認知症地域支援推進員や認知症コーディネーターと協同し、支援に必要な情報の更新を行っていく。今年度は、認知症当事者が安心でき、受診や相談につながる内容とした“本人用ケアパス”の試作品を作成していく。

②認知症カフェ

認知症に対する正しい理解を広め、認知症になっても安心して住み続けられる地域をつくることを目的として、当事者・家族・専門職・地域住民などが集える「認知症カフェ」を開催する。

指標	実績					
参加人数（人） ※各年度末時点	H30 （2018）	R1 （2019）	R2 （2020）	R3 （2021）	R4 （2022）	R5.9月末 （2023）
	354	407	0	317	736	343

＜令和5年度＞

地域包括支援センターに事業を委託して、市内各地で開催。コロナ禍で減少していた参加者数は、コロナ禍以前に戻っている。

様々な立場の人が気軽に交流することで、認知症に対する理解を深めるとともに、当事者や家族の思いや希望を引き出す場となるよう当事者や家族、相談者などに声をかけている。その他、様々な立場の方が集まるように、HP・市の広報紙・町内回覧などで周知している。

③人材育成

認知症地域支援推進員・認知症コーディネーターとの意見交換を行い、事業について見直しすべき点を明らかにする。また、相談支援の現場でとらえた当事者や家族の意見から、必要と思われる事業を検討し、その実現に向けて市とともに活動する。

＜令和5年度＞

昨年度より、認知症地域支援推進員・認知症コーディネーターとの意見交換から出された意見が速やかに実現されるよう、以下の3つのチームに分けて活動している。

チームAでは、周知啓発のひとつとして「認知症メモリーウオーク」の開催を計画している。

A:「知　る」⇒ケアパス・周知啓発・イベント等の検討
B:「育てる」⇒認サポ・チームオレンジ・本人参加・家族会等の検討
C:「つながる」⇒カフェ・他機関連携・初期集中支援等の検討

④認知症サポーター養成

認知症を正しく知り、やさしく見守ることができる「認知症サポーター」を養成する。

令和4年度は市内小学校(1，038名)での開催のほか、印旛明誠高等学校での講座を再開した(192 名)。個人でも参加できるよう一般市民向けの講座を開催し、47名が受講した。

また、認知症サポーター養成講座受講者の中から、支援者として活動を行う団体である「チームオレンジ」の設置が求められており、ちょきん運動の2グループにフォローアップ講座を行い、チームオレンジとして発足させた。

指標	実績					
認知症サポーター養成(人)※各年度末時点	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5.9月末(2023)
	1,133	1,276	107	1,033	1，565	388

＜令和5年度＞

引き続き、小学校での講座を実施していく。また、今年度も、個人で受講できる市民向けの講座を開催し、46名の参加があった。夏休みには保護者とともに参加できる、中学生向けの講座を開催した。学校関係の行事と重なったこともあり、3組の参加だったため、今後の開催については開催時期や周知方法について改善を図っていく。

チームオレンジの設置については、引き続き認知症当事者とともに活動している団体等に、フォローアップ講座の開催を働きかけるとともに、すでに発足したチームがより認知症に対する理解を深め、当事者とともに活動が続けられるよう支援していく。

9/13　市民向けの認知症サポーター養成講座の様子

⑤初期集中支援チームの設置

認知症の早期診断・早期対応に向けた、多職種連携による支援体制の構築を目的に設置。日本医科大学千葉北総病院に業務委託して実施。認知症の人を支える支援体制づくりの一助として活用するとともに、共に支援を行う関係者の認知症支援のスキル向上に資するものとなっている。

指標	実績				
対応実件数(件) ※各年度末時点	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
	設置	2	10	9	4

＜令和5年度＞

多職種連携交流会で、認知症疾患医療センターや初期集中支援チームについて紹介し、介護事業所をはじめとする多くの機関にその役割や利用方法を周知した。

⑥認知症周知啓発事業

認知症に対する正しい理解を深めるために、講座の開催や広報紙・ホームページ等、様々な方法で認知症についての正しい知識と理解を広めていく。

指標	実績					
出前講座参加者数 (人)※各年度末時点	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5.9月末 (2023)
	21	19	24	27	38	16

＜令和5年度＞

広報紙・ホームページ等に認知症についての記事を掲載するほか、出前講座の実施で認知症についての周知を図る。啓発物の作成・配布を含め、様々な方法で認知症についての正しい理解を広めていく。9月に啓発用のティッシュを作成したほか、市内書店や図書館での認知症関連図書コーナーの依頼を行った。新しい事業として、11月にメモリーウオークを開催予定。

TSUTAYA BIGHOP 店様での様子

9/16　世界アルツハイマーデー

9/16(土)印西市文化ホールにて、認知症疾患医療センター主催「世界アルツハイマーデーイベント」を後援。講演会は会場とZOOMによる視聴ができるハイブリッド形式で行われた。来場された方には、クラフトコーナーやカフェコーナー、VR体験コーナーなどを通して、認知症への理解を深めていただいた。

【午前講演参加者】　会場　　42 名　　オンライン　　22名

午前の部　講演①
日本医科大学千葉北総病院
認知症疾患医療センター長
山崎峰雄先生
「認知症教室
　～早期認知症最新治療～」

午前の部　講演②
聖徳大学福祉・心理学部
教授　長田　由紀子先生
　「認知症本人と家族の心理」

【午後講演参加者】　会場　　16名　　オンライン　　22名

午後の部　講演
日本医科大学千葉北総病院
メンタルヘルス科病院教授
下田健吾先生
「認知症教室
　～本人と家族、介護者の困りごとへのアプローチ～」

クラフトコーナー

物忘れプログラム

【6名実施】

VR体験

【15 名実施】